

《担当者名》長谷川 聡(非) haseg@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

介護実習およびその関連科目学修に際して必要な要介護当事者・家族・住民・職員とのコミュニケーションに関する知識と技術・技能について、イメージ形成とマインド醸成を主眼に基礎から学ぶ科目である。

【学修目標】

- 1) 介護専門職に必要なコミュニケーションスキルと人間関係について理解するために、対人および集団コミュニケーション訓練を体験する。
- 2) 要介護者を対象別に、家族・地域・職場とのかかわりを役割別に俯瞰して「コミュニケーションへの配慮」、「傾聴的態度」、「ことばの介助」を説明して実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	シラバスと学修方法を説明できる。 学生の個別学習ニーズを検討する。	長谷川
2	コミュニケーション演習1	コミュニケーション基礎となる表現と関係性への集中と開放、発声と聴き取りを体験する。	長谷川
3	コミュニケーション演習2	表現と受容の過程に着目して非言語コミュニケーションを体験する。	長谷川
4	コミュニケーション演習3	コミュニケーション経路とその複合経路の分析と統合に着目して非言語コミュニケーションを体験する。	長谷川
5	コミュニケーション演習4	ロールプレイングの基礎となる演技法と役割行動を体験して検討する。	長谷川
6	コミュニケーション演習5	ロールプレイングの基礎となる仮想行動の自他観察と振り返り技法を体験して検討する。	長谷川
7	コミュニケーション演習6	当事者、関係者、担当者のロールプレイングを繰り返し介護支援者としての役割行動の意義と価値を体験的に検討する。	長谷川
8	コミュニケーション演習7	インテーク場面のロールプレイから半構造化面接技法の実際を体験し、来談者対応、観察、記録の留意点を検討する。	長谷川
9	コミュニケーション演習8	インテーク場面のロールプレイから傾聴技法の実際を体験し、自他を観察する留意点について検討する。	長谷川
10	コミュニケーション演習9	介護場面におけるロールプレイから被支援者と支援者の関係性と相互作用を体験し、支援者の関わりかたの留意点を検討する。	長谷川
11	コミュニケーション演習10	グループファシリテーション(レクリエーション活動等)のロールプレイによるファシリテータ役を交互に体験、その役割と技能の実際を検討する。	長谷川
12	コミュニケーション演習11	グループファシリテーション(グループカウンセリング等)のロールプレイによるファシリテータ役を交互に体験、その役割と技能の実際を検討する。	長谷川
13	コミュニケーション演習12	小グループでの説明と発表を体験し、その意味・目的・価値について検討する。	長谷川
14	コミュニケーション演習13	大グループでの説明と発表を体験し、その意味・目的・価値について検討する。	長谷川
15	中間総括と討議	演習と体験を総括し、その意味・目的・価値について検討する。	長谷川
16	介護コミュニケーション論概説	コミュニケーションの原理と、介護におけるコミュニケーション技術の意義、目的について検討し、説明・実践できる。	長谷川

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
17	対象別コミュニケーション1	高齢者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
18	対象別コミュニケーション2	認知症者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
19	対象別コミュニケーション3	聴覚障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
20	対象別コミュニケーション4	言語障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
21	対象別コミュニケーション5	発達障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
22	対象別コミュニケーション6	高次脳機能障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
23	対象別コミュニケーション7	精神障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
24	役割別コミュニケーション1	家族の関わりとそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
25	役割別コミュニケーション2	地域の関わりとそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
26	役割別コミュニケーション3	他職種・多職種連携のコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
27	役割別コミュニケーション4	職場におけるコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
28	介護コミュニケーション総括1	コミュニケーションの原理と基本事項を振り返り、体験と知識学習に基づいて再び検討する。	長谷川
29	介護コミュニケーション総括2	ケアリングとケアリング・コミュニケーションの基本事項を振り返り、体験と知識学習に基づいて再び検討する。	長谷川
30	全期総括と振り返り	介護コミュニケーション論全プログラムを振り返り、今後の学修課題を検討する。 期末課題を説明する。	長谷川

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業参加（討議発言、ロールプレイ参加、リアクション・シート）70%、期末課題30%。

【教科書】

「介護初任者研修テキスト2 コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解(第5版)」小池将文・森繁樹監修 日本医療企画

【参考書】

「保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門」石川ひろの著 大修館書店

【備考】

この科目は介護福祉士国家試験受験資格のための領域「介護」の教育内容の「コミュニケーション技術」に該当する。

Google Classroom, Google Driveを用いた遠隔授業教材・課題を用意している。Classroomのストリームを講義進行に合わせて逐次公開するので積極的に活用してオンライン自習することが期待されている。

教科書は前・後期で異なるが、前期開始時に両方とも入手しておくことが望ましい。

【学修の準備】

教科書を事前に通読して読めない漢字を調べてルビを振る、ノートを作るなどして読めるようにしておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1,4

【実務経験】

行政職員(身障更生相談所福祉技術職)、社会福祉法人理事長

【実務経験を活かした教育内容】

相談機関・医療機関・社会福祉施設での実務経験を活かし、高齢者・障害者とその家族の相談やケアの方法、あるいは関連機関・関連職種・地域住民との実践的コミュニケーションスキルを修得する。